

令和6年度第2回塩尻市行政評価委員会評価結果

日時 令和7年2月19日（水）午前10時～
場所 塩尻市役所本庁舎 3階 庁議室

○第六次塩尻市総合計画 幸福度分析についての評価

1 第六次塩尻市総合計画 概要について

- ・年代別幸福度については、10代の子どもたちがどう思っているのかというデータも見られたら良い。また20代の幸福度0点が2.8%であり、全年代の平均値が上がれば良いということだけではないのではないかと。
- ・年代によって感じ方は違うかもしれないが、若者の幸福度が上がらないと、将来的に良くなならない。
- ・総合計画の冊子が見やすく良い。市民に寄り添ってわかりやすく伝えようとしていると感じる。とは言え、一般市民にはまだ全然活用されていないのではないかと。もっと知ってもらうことが必要で、そのための方策を一緒に考えていきたい。

2 第六次塩尻市総合計画 幸福度分析について

- ・内部的な資料として作成するのは良いが、市民に公表する際には、わかりやすく説明する必要がある。
- ・難しいけれど、どこよりも先に立ってやって行こうというところは、塩尻市の特徴でありとても良いと感じた。確信をもって進んでほしい。
- ・「自分のことを好ましく感じる」指標が基本戦略Cの医療・介護・保健・福祉に設定されているが、表現のずれがあると感じる。今後、よりブラッシュアップしていくことに期待する。
- ・統計をベースにした定量化は大切であり、幸福度というものを専門的に研究する部署は必要であると考え。それとは別に、施策が市民の幸福度向上につながっているという単純な観点が指標にならなければ、広がって行かないのではないかと。幸福度は難しいという感覚が広がるのはあまり良くなく、もっと単純な感覚で良いと思う。
- ・幸せは一人ひとり価値観が違うので、定量化するというのは難しいと思うが、分析し数値を出したということは、施策の方向性に対しても大切なことだと思う。子どもたちが安心して暮らせると、地域を好きな人が増え、幸福度が向上すると思うので、地域を良くしていこうと活動する人や、一方で貧困に陥っている人たちの声を引っ張ってきて、生活環境を向上させる政策ができると良いと思った。
- ・計画の表題にもある、多彩な暮らしを実感しているかどうかについてもアンケートを取っても良いのではないかと。統計自体は生かしつつ、塩尻市らしさや、住んでいる人のそれぞれの暮らしが叶えられているかどうかについてもデータを積み重ねていってはどうか。

- ・地域づくりは、いかに味方を増やすのかが大切だと思っており、知る人ぞ知るだけでなく、庁内でも関係団体を含めて知っていただくことが必要である。自分事に落とし込んでもらえるような機会を、計画期間の9年間の中で沢山つくってほしい。
- ・弱者の声を吸い上げるような団体を支援することに力を入れる必要があり、そのような団体からの意見を反映してほしい。
- ・マイナス要因をプラス要因に変える施策をやっていくことが大事ではないか。幸せをみんなで考えるということを強く伝えることが必要。